雑学書庫 知識の記録

目の前のゴリラを見落とす理由、非注意性盲目

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/19461/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

歩きながらスマートフォンを見ていて、知り合いがすぐ目の前で手を振っていたのにまったく気づかなかったことはありませんか。目は確かにそちらを向いていたのに、記憶には何も残っていません。このように一つのことに注意を向けている間、目の前のはっきりした対象に気づかない現象を「非注意性盲目（Inattentional Blindness）」と呼びます。 非注意性盲目とは、簡単に言えば「注意を向けていないものは、目に入っても見えない現象」を意味します。心理学者のアリエン・マック（Arien Mack）とアーヴィン・ロック（Irvin Rock）が1998年に同名の本を出して用語を広め、翌年にはダニエル・シモンズ（Daniel Simons）とクリストファー・チャブリス（Christopher Chabris）の「見えないゴリラ」実験によって一般にも有名になりました。 本稿では、ゴリラ実験が示した事実、見えているのに見えない理由、日常と専門現場の事例、そして非注意性盲目と付き合っていく方法まで、順に見ていきます。 目を開けていても、注意がなければ見えない 見えないゴリラ実験 1999年、シモンズとチャブリスは参加者に短い動画を見せ、白いシャツのチームがバスケットボールを何回パスするか数えるよう頼みました。動画の途中では、ゴリラの着ぐるみを着た人が選手たちの間に歩いて入り、胸をたたいて去っていきまし